

---

---

2012 年度（平成 24 年度）

# 事業報告書

平成 25 年 5 月 24 日

学校法人 玉手山学園

---

---

## I. はじめに

### 専門学校閉校（2013年3月）使命全う、大学・短大に発展的移行

2012年度は第1期(2008~2012)学園中長期計画の完成年度でした。その有終に1970年開設の関西医療技術専門学校の4学科が、学園内大学・短期大学への発展的移行を成し遂げ、その使命を全うし閉校いたしました。3,300名を越える多くの専門学校卒業生たちは学園の誇りです。彼らの後輩たちは、これからも大学生、短期大学生としてどんどん続いてまいります。専門学校教育にご支援をいただいた多くの方々に心から感謝を申し上げます。

### 学園70th記念行事を完遂 学園教職員の尽力を評価

2012年度、学園は70周年を迎えることができました。その感謝表明、愛校心・母校愛醸成、学園力の発信・PRを期して様々な記念行事を実施いたしました。特に2012年5月の70周年記念式典(於 帝国ホテル大阪)では学生たちがお世話になっている実習先、就職先の方々など700名を越える大勢のお客様が集まってくださり、祝意と温かい励ましの言葉を頂戴しました。学生・生徒・園児たち、そして学園教職員の誠実な学修、教育活動の賜物であります。素晴らしい学生たちそして学園教職員を誇りに思います。

### 高等学校の入学者好調、誠実教育実践の賜物

2013年度の高校新入生は約380名となり、近年最高の入学者数となりました。本校教職員の誠実な教育実践が伝わり評価され始めた証左であると自負しています。問題はこれからの教育です。本校の教育を選んでくれた生徒たちに、どれだけの満足感をもたらすことができるか、総力を結集させて教育に邁進していくことが肝要です。一部の教員の“匠の技”ではなく、一人ひとりの真摯な教育情熱による誠実な教育実践こそが大切です。

### 第1期が終了、第2期(2013~2017)学園中長期計画へ

学園経営理念とビジョンの達成に向け2013年度から始まる第2期学園中長期計画の一層の共有、定着を期し、再確認・見直しの作業を行い、一部修正を加え改訂いたしました。次年度から新しい5年計画のスタートです。

平成24年度も、教育活動に誠実に邁進してまいりました。学園の総力を結集させて遂行した平成24年度の教育事業を以下にご報告いたします。

平成25年5月24日  
理事長 江端源治

## 建学の精神「感恩」

人はみな有形無形の数々の恩恵を享受し 今の自分がある  
この偉大なはからいに目覚め 深い感動と感謝の念から発する豊かな心と情熱をもって  
人の幸せを願い行動するとき われわれは社会に貢献することができる  
～「ありがとう」に出会い気づき 感動 感謝の行動から  
また新しい「ありがとう」が生み出されていく～

## 学園の使命

建学の精神「感恩」を体し 人間の絆に目覚め 高い志をもち社会に貢献し得る人を育成し 豊かな社会の構築に寄与する

## 経営方針

1. 学生 生徒 園児のもてる力をひきだし 次代を担う有為な人を育成する
2. 教育人としての自覚のもと 自己の能力および人格の向上に努め その使命 責務を誠実に遂行し 人類の未来を拓く「知」の継承 伝達 創造 発展に寄与する
3. 学園の各校園は それぞれの教育理念 目的のもと具体的な教育目標を掲げ 常に改革の意識をもって 創意工夫を重ね 総力を結集する
4. 継続 改革 発展を支える確かな組織力と健全な財政基盤の確立に努める

## ビジョン

### 【玉手山学園がめざすもの】

1. 豊かな心 高い志の育成  
～笑顔 あいさつ 優しさを大切にし  
目を輝かせ夢を語り合う学園～
2. 学園教育力の向上
  - ・教育の質向上（教育力・研究力の更なる向上）
  - ・規模拡大
  - ・4 校園体制堅持
  - ・健全収支
3. 地域貢献 社会に必要とされ愛される学園
4. 教育環境（安心 快適 ECO）充実
5. 学園総合力の向上と社会に誇れる学園ブランドの確立
  - ・各校園の相互尊重 信頼 扶助（学園ファミリー意識）

## II. 法人の概要

### 1. 沿革

年月日		沿革
昭和 17 年	3 月	財団法人山田学園認可 玉手山高等女学校 設置認可
昭和 22 年	4 月	玉手山中学校 設置 玉手山女子専門学校 設置
昭和 23 年	4 月	学制改革により玉手山高等学校と改称
昭和 25 年	3 月	玉手山女子専門学校 廃止
昭和 26 年	3 月	学校法人玉手山学園に組織変更
昭和 40 年	3 月	玉手山中学校 廃止
昭和 40 年	4 月	玉手山女子短期大学 家政科・保育科 開設 玉手山女子短期大学附属幼稚園 開設
昭和 41 年	10 月	玉手山女子短期大学を関西女子短期大学に改称 玉手山女子短期大学附属幼稚園を関西女子短期大学附属幼稚園に改称
昭和 42 年	4 月	関西女子短期大学 保健科 設置
昭和 45 年	4 月	関西女子短期大学附属歯科技工士学院 開設 (昭和 56 年関西女子医療技術専門学校へ移行)
昭和 49 年	3 月	関西女子短期大学 家政科 廃止
昭和 49 年	4 月	玉手山高等学校を関西女子短期大学附属高等学校に改称
昭和 56 年	4 月	関西女子短期大学附属歯科技工士学院を改組の上、関西女子医療技術専門学校 医療秘書学科開設
平成 4 年	4 月	関西女子医療技術専門学校 ビジネス秘書学科 設置
平成 7 年	3 月	関西女子医療技術専門学校 歯科技工士学科 廃止
平成 7 年	4 月	関西女子医療技術専門学校 理学療法学科 設置
平成 8 年	4 月	関西女子医療技術専門学校 作業療法学科・介護福祉学科 設置 関西女子医療技術専門学校 医療秘書学科とビジネス秘書学科を統合し、医療 ビジネス学科に改称
平成 9 年	4 月	関西福祉科学大学 社会福祉学部社会福祉学科 開設
平成 10 年	4 月	関西女子短期大学附属高等学校を関西福祉科学大学高等学校に改称 関西女子医療技術専門学校を関西医療技術専門学校に改称し、男女共学実施
平成 11 年	4 月	関西福祉科学大学高等学校 特別進学コースのみ男女共学実施
平成 13 年	4 月	関西福祉科学大学大学院 社会福祉学研究科臨床福祉学専攻 設置 関西女子短期大学 福祉栄養学科 設置 関西医療技術専門学校 介護福祉専攻科 設置
平成 15 年	4 月	関西福祉科学大学 社会福祉学部臨床心理学科 設置 健康福祉学部健康科学科・福祉栄養学科 設置 関西福祉科学大学大学院 社会福祉学研究科臨床福祉学専攻 (博士後期課程) 設置 社会福祉学研究科心理臨床学専攻 設置
平成 16 年	3 月	関西女子短期大学 福祉栄養学科 廃止

年月日		沿革
平成 17 年	4 月	関西女子短期大学 歯科衛生学科 (3 年制) 設置
平成 18 年	4 月	関西医療技術専門学校 医療ビジネス学科を診療情報管理学科・診療情報管理専攻科に改組 関西福祉科学大学高等学校 3 コース制導入 (特別進学 I、特別進学 II、総合進学)
平成 21 年	3 月	関西医療技術専門学校 介護福祉専攻科 廃止
平成 22 年	4 月	関西福祉科学大学 特別支援教育専攻科 設置
平成 23 年	3 月	関西医療技術専門学校 診療情報管理専攻科 廃止
平成 23 年	4 月	関西福祉科学大学 保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻・作業療法学専攻 設置 関西女子短期大学 医療秘書学科・医療秘書学専攻科 設置
平成 24 年	3 月	関西医療技術専門学校 介護福祉学科・診療情報管理学科 廃止
平成 25 年	3 月	関西医療技術専門学校 廃止
平成 25 年	4 月	関西福祉科学大学高等学校 3 コース制を 4 コース制に改編 (特別進学 I、特別進学 II、進学、保育進学)

## 2. 設置する学校

学校名	学部・学科・専攻等	開設年度	
関西福祉科学大学	社会福祉学研究科	臨床福祉学専攻 (博士前期課程)	平成13年
		臨床福祉学専攻 (博士後期課程)	平成15年
		心理臨床学専攻 (修士課程)	平成15年
	社会福祉学部	社会福祉学科	平成9年
		臨床心理学科	平成15年
	健康福祉学部	健康科学科	平成15年
		福祉栄養学科	平成15年
保健医療学部	リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	平成23年	
	特別支援教育専攻科	平成22年	
関西女子短期大学	保育科	昭和40年	
	保健科	昭和42年	
	医療秘書学科	平成23年	
	歯科衛生学科	平成17年	
	医療秘書学専攻科	平成23年	
関西福祉科学大学高等学校	全日制課程普通科	昭和17年	
関西女子短期大学附属幼稚園		昭和40年	
関西医療技術専門学校	医療専門課程	理学療法学科	平成7年
		作業療法学科	平成8年

※関西医療技術専門学校は平成 25 年 3 月 31 日をもって廃止

### 3. 学生・生徒・園児数の状況

< 関西福祉科学大学 >

(単位：名)

研究科・学部・学科・専攻科		入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	H24年度在籍者数(現員)				H23年度卒業生数
					H24.5.1				
						1年生	2年生	3年生	4年生
社会福祉学研究科	臨床福祉学専攻(博士前期課程)	20	0	40	3	11	/	/	8
	臨床福祉学専攻(博士後期課程)	3	0	9	4	3	5	/	2
	心理臨床学専攻(修士課程)	10	0	20	8	12	/	/	14
大学院 計		33	0	69	15	26	5	/	24
					46				
社会福祉学部	社会福祉学科	240	40	1,040	180	173	190	220	265
	臨床心理学科	100	20	440	56	53	76	116	123
計		340	60	1,480	236	226	266	336	388
					1,064				
健康福祉学部	健康科学科	90	10	380	80	74	63	73	80
	福祉栄養学科	80	5	330	86	85	86	72	90
計		170	15	710	166	159	149	145	170
					619				
保健医療学部	リハビリテーション学科	120	0	480	140	116	—	—	—
	理学療法学専攻	80	0	320	92	78	—	—	—
	作業療法学専攻	40	0	160	48	38	—	—	—
計		120	0	480	140	116	—	—	—
					256				
大学 計		630	75	2,670	1,939				558
特別支援教育専攻科		40	0	40	3	/	/	/	9

(「平成 24 年度学校基本調査 (平成 24 年 5 月 1 日現在)」より)

※保健医療学部は平成 23 年 4 月開設 (実質収容定員 240 名)

< 関西女子短期大学 >

(単位：名)

学科	入学定員	収容定員	H24年度在籍者数(現員)			H23年度卒業生数	
			H24.5.1				
				1年生	2年生	3年生	
保育科	100	200	100	69	/	82	
保健科	40	80	51	39	/	87	
歯科衛生学科	100	300	104	105	88	99	
医療秘書学科	60	120	56	64	/	—	
短大 計		300	700	311	277	88	268
					676		
医療秘書学専攻科		10	10	3	/	/	3

(「平成 24 年度学校基本調査 (平成 24 年 5 月 1 日現在)」より)

< 関西福祉科学大学高等学校 >

(単位：名)

学校名	入学定員	収容定員	H24年度在籍者数(現員)			H23年度卒業生数
			H24.5.1			
				1年生	2年生	3年生
関西福祉科学大学高等学校	240	720	234	208	163	182
高校 計		240	720	605		182

※入学定員は入学募集定員にて示す (学則上の入学定員 470 名)

< 関西女子短期大学附属幼稚園 >

(単位：名)

学校名	入学定員	収容定員	H24年度在園児数(現員)				H23年度卒園児数
			H24.5.1				
			最年少	年少	年中	年長	
関西女子短期大学附属幼稚園	—	495	1	108	131	129	121
幼稚園 計	—	495	369				121

※最年少は満3歳児クラスを示す

< 関西医療技術専門学校 >

(単位：名)

課程・学科・専攻科		入学定員	収容定員	H24年度在籍者数(現員)			H23年度卒業生数
				H24.5.1			
				1年生	2年生	3年生	
医療専門課程	理学療法学科	0	40			30	30
	作業療法学科	0	40			36	24
専門学校 計		0	80	66			54

4. 役員・教職員の人数

(1) 役員 (単位：名)

役員、評議員	定員数	現員
理事	8～10	8
監事	2～3	2
評議員	21～25	23

(平成24年5月1日現在)

(2) 教職員数 (単位：名)

学校名	教員		職員	
	専任(本務)	兼務	専任(本務)	兼務
関西福祉科学大学	114	88	53	28
関西女子短期大学	36	63	15	21
関西福祉科学大学高等学校	44	23	5	12
関西女子短期大学附属幼稚園	19	7	1	6
関西医療技術専門学校	9	3	7	7
法人	0	0	1	2
法人本部	0	0	18	13
合計	222	184	100	89

※兼務職員数は学生アルバイトを除いた人数にて示す (平成24年5月1日現在)

[専任教員内訳]

< 関西福祉科学大学 >

(単位：名)

学部・学科		大学設置基準上 必要な専任教員数		教授		准教授		講師		助教		助手		計	
		専任教員	うち教授	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
社会福祉学部	社会福祉学科	16	8	10	4	3	7	3	7	0	2	0	0	16	20
	臨床心理学科	10	5	7	2	2	6	0	1	0	0	0	0	9	9
健康福祉学部	健康科学科	10	5	6	1	1	2	2	5	0	0	0	0	9	8
	福祉栄養学科	10	5	9	0	2	3	0	1	0	0	0	0	11	4
保健医療学部	リハビリテーション学科	15	8	7	3	6	3	2	2	2	1	0	0	17	9
大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数		27	14	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
合 計		88	45	39	10	14	21	7	16	2	3	0	0	62	50

(平成 24 年 5 月 1 日現在)

※心理・教育相談センター教員 2 名除く

< 関西女子短期大学 >

(単位：名)

学科	短大設置基準上 必要な専任教員数		教授		准教授		講師		助教		助手		計		
	専任教員	うち教授	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
保育科	8	3	2	1	1	2	0	3	0	0	0	0	3	6	
保健科	4	2	3	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3	3	
歯科衛生学科	6	2	2	4	0	1	0	2	0	0	0	3	2	10	
医療秘書学科	4	2	1	2	0	2	0	1	0	3	0	0	1	8	
短期大学全体の入学定員に応じ定める専任教員数		5	2	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
合 計		27	11	8	7	1	7	0	7	0	3	0	3	9	27

(平成 24 年 5 月 1 日現在)

< 関西福祉科学大学高等学校 >

< 関西女子短期大学附属幼稚園 >

< 関西医療技術専門学校 >

(単位：名)

学校名	専任教員数		計	
	男	女	男	女
関西福祉科学大学高等学校	32	12	32	12
関西女子短期大学附属幼稚園	4	15	4	15
関西医療技術専門学校	6	3	6	3

(平成 24 年 5 月 1 日現在)



### Ⅲ. 事業の概要（主な事業内容および進捗状況）

#### 関西福祉科学大学

1. 夢、笑顔、あいさつ、優しさなど“豊かさ”実感の機会創出、提供  
生まれようとする芽を大切に 日々の授業・業務の中で実践
  - ・教員が学生に授業冒頭に「自分史(夢、失敗、泣笑い etc..)」を披瀝することによる実感の機会創出について、教務委員会を通じて周知を図った。
  - ・クリーンキャンペーン、大学祭やリーダーズキャンプ等学生が主体となる企画を支援し、学生同士で感動を共有できる機会の創出に努めた。
2. 学士力を保証する3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の共有・実践
  - ・ディプロマ・ポリシーに対応した単位認定、卒業認定を実施するにあたり、入試制度のあり方等も踏まえながら次年度以降検討を予定している。
  - ・カリキュラム・ポリシーに対応したコアカリキュラム及びシラバスのあり方について、次年度以降の課題として設定した。
  - ・A0入試及び推薦入試時に面接担当教員に対し各学科のアドミッション・ポリシーを配付し、アドミッション・ポリシーの共有と実践を図った。
3. 学生修学力の向上
  - (1) 出席率の向上
    - ・教務部において、出席管理の現状把握を目的としたアンケート調査を全授業科目対象に実施した。これにより浮き彫りとなった課題を学内で共有し、出席管理のあり方について再検討した。
    - ・平成25年度より教育開発支援センターが中心となりE-learningシステム「manaba」の運用を開始することとなり、出席管理を全面的に展開していく。
  - (2) ゼミ指導の推進
    - ・各学科の「基礎演習（ゼミナール）」において、国語力を養う基礎学力の向上を目指した指導に尽力した。国語力、特に作文能力や討議・討論をする基本姿勢の育成には一定の効果が得られた。
  - (3) コース制教育の推進
    - ・入学年次より各コースの特徴や学習内容の説明を強化すると共に、コース選択への意志確認を都度行うことで、各コースの専門性とその担うべき業務の役割理解を促した。また、キャリア・デザイン科目を新設したこともあり、学生の将来ビジョンの意識付けにつながった。
  - (4) 初年次教育プログラムの推進
    - ・キャリア関連科目「キャリア・デザインⅠ」（1年次）、「キャリア・デザインⅡ」（2年次）を新たに開設し、学生の将来ビジョンの早期意識付けに努めた。
    - ・学生の予復習時間確保のための学習支援施策の検討を行った。その結果、平成25年度よりE-learningシステム「manaba」を導入することで出席管理の徹底を図ることとなった。
    - ・平成25年度より「基礎力養成講座（補習教育）」を新たに開設し、学生の基礎学力の充実を図る。
4. 保健医療学研究科（仮称）の設置（2013年4月）
  - ・全学協力体制の下、保健医療学研究科（仮称）の設置申請を行ったが、文部科学省からの審査結果を受けて申請の取り下げを行った。
  - ・審査結果により明らかとなった課題等を踏まえて、平成27年4月開設に向けて再度申請を検討中である。

5. 就職指導、支援のさらなる充実 ～就労観の育成～
  - ・学生支援センターにおいて、就職支援・指導として学科担当制による就職個別相談、学科別就職ガイダンス、ゼミ担当別個別相談、学科別模擬試験・講座等の就職支援を行った。
  - ・就職支援の取組みとして、新規求人データベースの導入により個々の学生の立場に立った求人情報公開システムの運用を行った。
6. 総合リハビリテーション診療所（仮称）の開設（2013年9月）
  - ・教育・研究の質向上、地域貢献及び本学保健医療学部リハビリテーション学科の実習施設を目的とした「関西福祉科学大学附属総合リハビリテーション診療所」を2013年9月に開設を予定している。
7. 第1期（2008～2012）大学中長期計画の実践&第2期（2013～2017）大学中長期計画の準備
  - ・第1期中長期計画は2012年度運営計画に落とし込み実践した。
  - ・第2期中長期計画着手に向けて各学科・各部署等にて意見を聴取し、実施項目のさらなる精査を行い、1月25日理事会にて「第2期中長期計画(大学・短大)」（2013年度版）が承認された。
8. 学園70周年記念行事の推進
  - ・創立70周年記念誌発刊をはじめ二上山登山、記念式典・祝賀会等多くの記念行事を展開した。9月には「玉手山学園 a11 同窓会」を開催し、学園創立から現代に至るまでの本学園の卒業生が一堂に会し学園の創立70周年を祝した。
  - ・記念行事の一環として学園創立70周年記念事業募金を実施し、目標金額に早期に到達し、学園内外問わず多くの方々からの支援を受けた。

#### 関西女子短期大学

1. ミッション（役割、使命）の明確化と広報活動の充実
  - ・入学式等の諸行事において常に使命等を確認・言及し、意識の共有を図った。各学科では学科会議やコース会議等で確認を行い、理解・定着の徹底に努めた。学生に対しては、学生便覧に記載しているほか、各種オリエンテーションやゼミ時、実習事前事後指導時等の機会、並びに「夢ノート」を通じて理解・定着を図った。
  - ・入試広報部が主体となって、各学科・コースが連携したホームページの活性化、また各種メディアを利用して広報活動の充実を図った。
2. 短大ブランド力の確立
  - ・一般財団法人短期大学基準協会において、平成24年度第三者評価を受審した。平成24年6月末に「自己点検・評価報告書」を同協会に提出し、10月9日から10月11日の3日間に亘り訪問調査が実施され、同協会が定める短期大学評価基準を満たしているとの「認定」を受領した。
3. キャリアガイダンス（キャリア教育、職業教育）の視点からの教育課程の再構築と夢ノートの充実
  - ・コミュニケーション能力の向上やマナー教育の徹底等のキャリア教育全般について、「夢ノート」を活用しながら、ゼミ教育を中心とした指導を展開した。また、「夢ノート」については更なる改善を図りつつ、その効果についても各学科において議論している。
4. 就職活動支援と同窓生支援活動の活性化ならびに生涯学習の視点に立ったキャリア形成支援の充実
  - ・各学科・コース別に就職ガイダンスを行い専門性の高い職業への理解を促した。また、就職活動を始めるにあたっての不安を解消するために就職支援講座やビューティーアップセミナーを開

催するなど多角的な支援を行った。

- ・同窓会総会時に就職相談コーナーを設置するなど、同窓会事務局と連携して卒業生のキャリア支援について検討を行った。

#### 5. 教育情報公開内容の一層の充実

- ・平成 24 年度公開分より、情報の積極的な公表を主眼に、8 項目を追加公開した。
- ・他大学における教育情報公開状況の調査を実施し、本学の公開状況との比較・検討を行い、平成 25 年度公開分より簡潔明瞭な構成・表現方法へ変更し運用していく予定である。
- ・情報公開に係る項目ごとに策定したスケジュールに則り、適宜情報を更新・配信した。また各種調査との連携により効率的な運営体制の構築に努めた。

#### 6. 学生満足度の上昇をめざした PDCA サイクルの実質化

- ・教育の向上・充実の一環として、シラバス、授業アンケート、並びに「自己点検シート」を活用した、教員個人の授業改善のための PDCA サイクルを実践した。特に、教員自身により「自己点検シート」の振り返りや自己評価を行うことで、次年度の授業改善につながるよう努めた。

#### 7. 学園内高校との連携体制の構築

- ・学園内高校への情報発信強化のための学園内高校対象説明会を前年度より引き続き実施した。さらに保護者を対象とした説明会及び個別相談会を実施し、1 年生から 3 年生の生徒を持つ保護者の悩みや相談に広く対応した。
- ・本学学生を学園内高校へ派遣して個別指導を実施する等、学園内高校との連携を強化した。

### 関西福祉科学大学高等学校

#### 1. 教育改革の推進

##### (1) 教職員の意識改革（スクラップアンドビルド）

一昨年より実施、強化している 5 つの基本目標（挨拶をする・時間を守る・授業を大切にする・「ありがとう」を大切にする・課外活動にすすんで参加する）の定着を意識した各学年での取り組みが、多くの場面で実践され、強く意識付けがされるようになった。

##### (2) 新コース設置に向けた詳細の検討、外部への PR

平成 25 年度新生からの 4 コース制設置について、特別進学 I コース・特別進学 II コース・進学コース・保育進学コースの各教育特色の実現に向け、細かなカリキュラムの検討や、それぞれの内容および実施項目について検討し準備した。

特に保育進学コースではカリキュラムに関西女子短期大学保育科および同附属幼稚園との連携授業（講座・実習）を設け、その実践的な内容を紹介する中学生・保護者向き説明会を実施した。

#### 2. 教育力の向上

##### (1) 授業アンケートの実施と活用

教科会議や学年会議を通じて「授業アンケート」の結果検証を行い、教科内で対策を検討し、授業の中で実践できるようになった。

##### (2) 高校生活満足度調査の実施と活用

生徒からの要望の多い事項について、内容を吟味し各担当部署で検討を行い、必要に応じて運営委員会に諮りその対応を検討、職員会議で内容を共有し、適宜対応している。

制服については、平成 25 年度入学生よりリニューアルすることとした。

### (3) 教員研修の実施

私学人研での新任研修をはじめ、各教科より教育研修会に積極参加しその内容報告など、適宜教科会議で実施、研修内容の共有を図っている。

#### 3. 生徒の基本的な生活習慣や学習の習慣について重点指導

特に基本の5つの基本目標を重点指導項目とする一方で、交通安全講習会の実施、校外での通行マナー向上のため通学路巡回指導や、考查中の国分駅周辺での下校指導を実施している。

#### 4. 学校自己点検評価の実施

教職員とPTAによる学校自己評価を今年度も実施、評価内容は昨年度とほぼ同様の結果が得られた。また、これらの評価内容をホームページでの公開のための環境整備を準備中である。

#### 5. 魅力ある学校行事の検討

平成25年度実施の新课程発足に合わせ、学校行事と生徒会行事の見直しを検討である。

#### 6. 積極的な課外活動への参加

春と秋の交通安全週間への参加や、柏原市民総合フェスティバルなどの地域行事への参加を実施した。

## 関西女子短期大学附属幼稚園

#### 1. 園児増を目指して魅力ある幼稚園の構築

- ・ファミリーデー、オープンスクール、観劇会、園庭開放と開かれた幼稚園を目指し、園児確保に積極的に取り組んだ。
- ・広報活動を改善し、より園児確保に努める必要有。

#### 2. 保育環境、施設、設備の充実

- ・園舎横の坂道を改修したことにより、なだらかな道で園児の安全を確保できたことと共に美観がよくなった。

#### 3. 満3歳児クラスの充実、子育て支援、未就園児クラスの増設

- ・びよびよクラス（2歳児～満3歳児）は定員をオーバーし、好評を得た。
- ・ころころクラス（満2歳児）は定員に満たず、今後認知度向上に取り組んでいく。

#### 4. 教員の保育力の向上

- ・教職員が保育に必要な知識を深めるため、種々の研修会に積極的に参加し努力できた。
- ・園内研修を充実させ、保育力の向上に努めた。

#### 5. 効果的な広報活動の充実

- ・国道沿い、畑本牛乳店ビルへ看板を新設、効果が期待できる。
- ・園報「めばえキラキラ」の内容の精査改善に努め、またより効果的な配布方法を検討中である。

## 関西医療技術専門学校

#### 1. 社会が求める人材の育成

平成24年度の卒業生については、国家資格取得をめざした54名のうち52名がそれぞれめざした理学療法士あるいは作業療法士の資格を取得することができた。その全員が就職して社会へ進出し

た。主な就職先は、病院、老人保健施設であった。

## 2. 学習環境の整備・確保

平成 24 年度も、「授業評価アンケート」と「学生生活満足度調査」を行って、集計・検討した。その結果、学習環境は最後まで良好に維持しえたと判断できた。

## 3. 教育力の発揮

教育力の向上のために、全教職員を対象として平成 19 年度から開始した学内勉強会を平成 24 年度は 2 回開催し、閉校に向けて教職員が共通の認識をもつ機会として有意義であった。なお、本校の閉校を迎えて時間的な制約が大きかったにもかかわらず、大学の実習開始に向けた諸業務を支援する一方、教職員自ら自己研鑽に励み、学会・研修会等に積極的に参加し、学会発表 9 題、掲載論文 4 篇を発信できた。

## 法人本部

### 1. 経営体質強化事業

#### (1) 第 1 期（2008～2012）学園「中長期計画」の推進

学園の発展的継続を期して、平成 20 年 11 月に策定した「第 1 期（2008～2012）学園中長期計画～学園 70 周年記念事業～」は、平成 24 年度に計画最終年度を迎えた。当初の計画を達成するため、各校園との連携を一層強化・推進し、一部計画の見直し・修正を行い、大部分を達成することができた。

#### (2) 第 2 期（2013～2017）学園「中長期計画」の策定

平成 24 年 3 月に策定した「第 2 期（2013～2017）学園中長期計画～学園創立 75 周年記念事業～」について、見直し、再確認を行い、平成 25 年 1 月理事会にて承認された。法人本部部門においては、新たに実施項目「地域イベントとの連携強化」を追加した。

#### (3) 財務基盤強化施策の確立

経費削減取組みの一環として集中購買システムを策定し、平成 24 年度に事務用品等消耗品の購入業者の選定を行い、平成 25 年度より実施することとなった。

安定した健全財政基盤を確立するために日本私立学校振興共済事業団の経営判定指標や財務比率表により、平成 23 年度までの財務状況の分析を行い、第 2 期（2013～2017）学園中長期計画に基づく財務予算の作成に着手している。

### 2. ブランド構築事業

#### (1) 学園 70 周年記念行事の実施

平成 24 年 5 月 11 日（金）帝国ホテル大阪に、約 700 名の来賓をお招きし、学園創立 70 周年記念式典・祝賀会を盛大に執り行った。また、平成 24 年 9 月 2 日（日）開催の学園 a11 同窓会イベントには、約 670 名の同窓生が集まった。同日午後には、一青窈スペシャルライブを学園の記念講堂にて開催し、ライブの内容は平成 24 年 9 月 17 日（祝）の FM802 でも放送された。

その他事業・行事として、「寄付金募集」、「70 周年記念誌の発行」、「フォトコンテスト」、「三世代表彰」、「二上山登山」、「愛称・名称募集」、「人文字作成」を行った。「寄付金募集」では、平成 25 年 3 月 31 日までに 1258 件、76,027,200 円の寄付が寄せられた。

#### (2) 学園広報強化への取組み

平成 24 年 12 月に学園広報ワーキングチームを組成し、駅看板更新デザイン等の検討を実施した。平成 25 年度も継続し、学園広報ワーキングチームを中心に、学園広報の強化に取り組む予定である。

### 3. 教育環境整備事業

- (1) 学園施設の中長期ビジョンの策定（キャンパス・フューチャービジョン・プロジェクト（以下、CFV という。）による検討）

平成 24 年度は、CFV による検討を計 10 回実施し、中長期的な校舎建替計画（老朽化した短大校舎建替など）の検討を行った。平成 24 年度総括として、「CFV2013」を取りまとめ中である。

- (2) 建物耐震診断・補強の推進

耐震診断実施に向けた 3 年計画（平成 24～26 年度）の進め方を検討した。平成 25 年 3 月には、診断実施事務所を選定した。平成 25 年 3 月に短大 3 号館・学生寮、4 月に高校 1 号館・2 号館の耐震診断を行った。

- (3) 大学附属総合リハビリテーション診療所（仮称）設置への取組み

平成 25 年 9 月開設に向け、平成 25 年 3 月 25 日より学園第 2 駐車場跡地への建築工事を進めている。また、所轄官庁と適宜、事務相談を実施し、開設に向け、準備中である。

- (4) スクールバス外部委託への取組み

平成 24 年 6 月にスクールバス検討ワーキングチームを組成し、22 回の検討会議を実施した。

平成 24 年 9 月理事会にて、スクールバス外部委託が承認可決され、平成 25 年 1 月に外部委託業者と契約を交わし、今年度の業務を完了した。平成 25 年度も引き続き、運行上の問題点の抽出と解決案について検討予定である。

- (5) 学園緑化推進

CFV に基づき、緑化計画第 2 弾（大学 2 号館前）を平成 25 年 3 月に実施した。平成 25 年度も引き続き、CFV での検討を踏まえ、学園緑化を推進する。

- (6) エネルギー節約推進

平成 24 年 7 月に各校園別に今年度の目標値を設定した。平成 24 年 8 月に、高校第 2 体育館、記念講堂の LED 更新工事を実施し、電気使用量前年比 73.7%と省エネを達成した。学園全体では、平成 24 年度の電気使用量は前年比 99.3%、ガス使用量は前年比 103.5%、水道使用量は前年比 82.6%の結果となった。

## IV. 財務の概要（平成 24 年度決算の概要）

### 1. 資金収支計算書

#### (1) 収入の部

納付金収入は、少子化の影響及び専門学校課程廃止もあり学生・生徒数が前年度と比べ減少したため、前年度比 138 百万円、予算比 39 百万円減少の 3,458 百万円となりました。

手数料収入は、前年度比ほぼ横ばいで、予算比 8 百万円増加の 86 百万円となりました。

寄付金収入は、前年度からの「学園創立 70 周年記念事業募金」により、前年度比 13 百万円、予算比 30 百万円増加の 51 百万円となりました。

補助金収入は、国庫補助金、大阪府補助金の増加により前年度比 197 百万円、予算比 183 百万円増加の 882 百万円となりました。

資産運用収入は、運用利回りの低迷が続いており、前年度比 3 百万円減少、予算比 2 百万円増加の 57 百万円となりました。

資産売却収入は、平成 25 年度より学園運営のスクールバス事業を外部委託にするため、保有しているスクールバス 3 台を売却したことにより 13 百万円の売却収入がありました。

事業収入は、前年比 6 百万円、予算比 5 百万円増加の 59 百万円となりました。

雑収入は、早期退職者の影響で退職金財団からの交付金収入の増収により前年度比 50 百万円、予算比 42 百万円増加の 151 百万円となりました。

前受金収入は、学生・生徒の入学人数が予算見込みより減少し、前年度比 7 百万円増加、予算比 82 百万円減少の 777 百万円となりました。

収入全体では前年度比 19 百万円減少、予算比 112 百万円増加の 4,689 百万円となりました。

#### (2) 支出の部

人件費は、早期退職者による退職金支出が増加したため、前年度比 91 百万円増加、専任教職員数は前年度より増加したが人件費の抑制効果により、予算比 40 百万円減少の 3,205 百万円となりました。

経費は、教育研究経費支出、管理経費支出合わせて前年度比 45 百万円増加したが、予算比では各部門における経費の節減効果が大きく教育研究経費、管理経費合計で 116 百万円減少の 1,365 百万円の支出となりました。

施設、設備関係支出については、前年度に大学新校舎建設関連の支出があったため、前年度比では 757 百万円、予算比 6 百万円減少の 166 百万円となりました。

#### (3) 繰越支払資金

上記の結果、法人全体として期中の支払資金は前年度より 551 百万円減少の 4,962 百万円となりましたが、減価償却引当特定資産への繰入支出 223 百万円、短大校舎建設引当特定資産への繰入支出 355 百万円、合計 578 百万円差引後の支払資金です。

### 2. 消費収支計算書

#### (1) 消費収入の部

消費収入は、学生生徒等納付金・手数料・寄付金・補助金・資産運用収入・事業収入・雑収入については資金収支計算書・収入の部と同じ要因で、資産処分差額にはスクールバス売却に伴う車輛売却差額 7 百万円を計上し、帰属収入の合計は前年度比 112 百万円、予算比 247 百万円増加の 4,762 百万円となりました。

基本金組入の主だったものとして短大新校舎建設に係る 2 号基本金への組入が 355 百万円あり、消費収入合計は前年度比 572 百万円、予算比 329 百万円増加の 4,365 百万円となりました。

## (2) 消費支出の部

資金収支計算書・支出の部と同じ要因で、人件費は前年度比 143 百万円増加、予算比 50 百万円減少の 3,197 百万円となりました。経費は、前年度比 43 百万円増加となったが、経費削減効果により予算比 135 百万円減少の 1,877 百万円となりました。消費支出の部合計は、前年度比 187 百万円増加、予算比 193 百万円減少の 5,081 百万円となりました。

## (3) 消費収支差額等

当年度消費収支差額は、収入増と経費の節減効果により支出超過額が予算比 522 百万円減少の 716 百万円の支出超過となり、基本金取崩額が 46 百万円あり、翌年度繰越消費支出超過額は 349 百万円となりました。なお、帰属収支差額は 319 百万円の支出超過となりました。

◆◆◆主要財務比率の経年比較表◆◆◆

	算式(×100)	H23 年度 (決算)	H24 年度 (決算)	前年度比	(ご参考) 全国平均※ (H23)
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	65.7%	67.1%	1.4%	54.0%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{納付金}}$	84.9%	92.5%	7.6%	74.4%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	29.0%	28.5%	△0.5%	30.9%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	10.5%	11.0%	0.5%	8.7%
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	△5.3%	△6.7%	△1.4%	3.4%
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	129.0%	116.4%	△12.6%	109.2%
学生・生徒等納付金 比率	$\frac{\text{納付金}}{\text{帰属収入}}$	77.4%	72.6%	△4.8%	72.7%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	14.7%	18.5%	3.8%	12.4%
減価償却費比率	$\frac{\text{減価償却費}}{\text{消費支出}}$	10.5%	10.1%	△0.4%	11.3%

※大学法人(医療系法人を除く)全国平均「平成 24 年度版 今日私学財政」より

## 3. 貸借対照表

### (1) 資産の部

固定資産は、有形固定資産において設備等の更新による増加はあったものの減価償却による簿価の減少により前年度末比 354 百万円減少の 12,576 百万円となりました。

また、その他の固定資産は、退職給与引当特定資産が百万円減少、減価償却引当特定資産が 223 百万円増加、新たに短大校舎建設引当特定資産 355 百万円を積んだことにより、前年度末比 577 百万円増加の 5,558 百万円となり、固定資産合計では前年度末比 223 百万円増加の 18,134 百万円となりました。

流動資産は、現金預金の減少等により、前年度末比 397 百万円減少の 5,237 百万円となりました。

よって資産の部合計は前年度末比 174 百万円減少の 23,371 百万円となりました。



(2) 負債の部

退職金を含む未払金の増加等により、負債の部合計は前年度末比 145 百万円増加の総額 2,026 百万円となりました。

(3) 基本金の部

短大校舎建設に係る 2 号基本金 355 百万円の組入に対し、備品の過年度簿外処理分の減額等があったものの基本金全体では前年度末比 351 百万円の増加となりました。

(4) 消費収支差額の部

消費収支計算書の部で述べたように、翌年度繰越消費収入超過額は、前年度末 321 百万円から 670 百万円減少し、349 百万円の翌年度繰越消費支出超過額となりました。また純資産は前年度末比 319 百万円減少の 21,345 百万円となりました。

#### 4. 今後の課題

少子化の影響で、学生生徒等の減少による収入減の中、平成 24 年度決算において帰属収入は、前年度より増加しましたが、退職給与引当金を含めた人件費等が前年度より増加したため帰属収支差額は、319 百万円の支出超過となりました。

今後の課題としては、学生・生徒等の募集をどのように行い、学生・生徒等の入学定員をいかに確保するかが喫緊の課題です。

また教育の質及び学生サービス向上のためにハード面及びソフト面についての投資は引続き積極的に行いながら、人件費や経費の支出を抑制し、財務状況の改善を目指します。

管理運営体制においては内部統制及び内部牽制の一層の強化を図ります。

平成 25 年度からの「第 2 期中長期計画」に基づき、学園経営体質の更なる改善、強化を図りながら安定した財政基盤をめざし適正な経理執行を行い、計画の達成を推進します。

## 【資料編】

### 関西福祉科学大学

#### 1. 平成 24 年度進路状況

(単位：名)

	全体	社会福祉学部		健康福祉学部	
		社会福祉学科	臨床心理学科	健康科学科	福祉栄養学科
卒業者	424	191	101	65	67
就職希望者	350	174	59	57	60
就職決定者	342	170	56	56	60
就職決定率	97.7%	97.7%	94.9%	98.2%	100%
進学希望者	34	3	22	3	6
進学決定者	33	3	21	3	6
進学率	97.1%	100%	95.5%	100%	100%

(平成 25 年 5 月 1 日現在)

#### 2. 平成 24 年度資格取得状況

(単位：名)

学部・学科・専攻科		社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	第一種衛生管理者(単位取得者)	管理栄養士	栄養士	フードスペシャリスト	養護教諭一種免許状	栄養教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状「公民」	高等学校教諭一種免許状「福祉」	高等学校教諭一種免許状「保健」	中学校教諭一種免許状「社会」	中学校教諭一種免許状「保健」	特別支援学校教諭一種免許状(単位取得者)
		社会福祉学部	社会福祉学科	25	8	39							3	3		2
	臨床心理学科		3								5			1		
健康福祉学部	健康科学科				58				53				19		19	
	福祉栄養学科					43	63	42	8							
特別支援教育専攻科																3

※現役での取得者数  
(平成 25 年 5 月 7 日現在)

関西女子短期大学

1. 平成 24 年度進路状況

(単位：名)

	全体	保育科	保健科	歯科衛生学科	医療秘書学科
卒業者	252	66	38	85	63
就職希望者	217	50	33	79	55
就職決定者	213	50	33	76	54
就職決定率	98.2%	100%	100%	96.2%	98.2%
進学希望者	13	7	2	0	4
進学決定者	13	7	2	0	4
進学率	100%	100%	100%	—	100%

(平成 25 年 5 月 1 日現在)

2. 平成 24 年度資格取得状況

(単位：名)

学科	歯科衛生士	保育士	幼稚園教諭二種免許状	養護教諭二種免許状	中学校教諭二種免許状「保健」	医療秘書士	介護福祉士	社会福祉主事任用資格	診療情報管理士
保育科	/	62	61	/	/	/	/	66	/
保健科	/	/	/	38	32	/	/	38	/
医療秘書学科	/	/	/	/	/	49	9	63	/
歯科衛生学科	79	/	/	/	/	/	/	85	/
医療秘書学専攻科	/	/	/	/	/	/	/	/	1

(平成 25 年 5 月 1 日現在)

関西福祉科学大学高等学校

1. 平成 24 年度進路状況

(単位：名)

	全体	特別進学 I コース	特別進学 II コース	総合進学コース
卒業者	163	13	95	55
進学希望者	160	13	94	53
進学決定者	153	13	90	50
進学率	95.6%	100%	95.7%	94.3%
就職希望者	3	0	1	2
就職決定者	3	0	1	2
就職決定率	100%	—	100%	100%

(平成 25 年 5 月 1 日現在)

1. 平成 24 年度進路状況 (単位：名)

	全体	理学療法学科	作業療法学科
卒業生	54	27	27
就職希望者	54	27	27
就職決定者	52	27	25
就職決定率	96%	100%	93%
進学希望者	0	0	0
進学決定者	0	0	0
進学率	0%	0%	0%

(平成 25 年 5 月 1 日現在)

2. 平成 24 年度資格取得状況

(単位：名)

学科	理学療法士	作業療法士
理学療法学科	27	
作業療法学科		25

(平成 25 年 5 月 1 日現在)